

こころのクリニック開院後5年間の受診状況と今後の課題

大谷 正人^{1) 2)}, 平山 木綿子²⁾, 吉井 恭子²⁾

1) 鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 医療福祉学科

2) 鈴鹿医療科学大学附属こころのクリニック

活動報告

こころのクリニック開院後 5 年間の受診状況と今後の課題

大谷 正人^{1) 2)}, 平山 木綿子²⁾, 吉井 恭子²⁾

1) 鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 医療福祉学科

2) 鈴鹿医療科学大学附属こころのクリニック

キーワード： 大学附属クリニック, 児童青年精神医学, DSM-5, 神経発達障害

要 旨

2017 年度から 2021 年度までの、こころのクリニック受診者の現状とその課題について報告した。開院後 5 年間の延べ受診者数については、2017 年度から順に 1,103 人, 1,991 人, 2,411 人, 2,613 人, 2,831 人と増え続けている。初診患者は 5 年間で、計 1,031 人であった。初診患者を年齢別にみると、幼児・小学生・中学生・高校生の年代の子どもが、5 年間の総計で 81.8%と大半を占めた。疾患別にみると、神経発達障害群が 5 年間の総計で 63.4%と多くを占めて、特に注意欠如・多動症と自閉スペクトラム症だけで 53.2%と過半数になった。他には抑うつ障害群、不安障害群などが多かった。

2022 年度から診療する医師が 2 人となり、1 週間の診察時間も 14 時間から 20.5 時間に増えたが、毎月数十人の初診依頼を断って、翌月以降の再度の電話連絡をお願いせざるを得ない状況が続いていることを考えると、今後の課題としては、児童・思春期を中心的に診療できる医師を複数にするなど、診療体制の充実が望まれる。

1. はじめに

—こころのクリニック 5 年間の診療とクリニックでの実習の概要—

鈴鹿医療科学大学附属こころのクリニックは 2017 年 5 月に開院し、2022 年 6 月の時点で 5 年余りが経過した。開院後 2 年間の状況は、鈴鹿医療科学大学紀要第 24 号¹⁾、鈴鹿こころ臨床心理学研究第 1 号²⁾、鈴鹿医療科学大学紀要第 26 号³⁾で報告したが、今回は、こころのクリニックにおける 2017 年度から 2021 年度までの 5 年間の受診状況を検討しながら、こころのクリニックの現状とその課題について記したい。なお、これまでの報告と重複する部分については一部省略した。

こころのクリニックでは、2017 年度から 2021 年度まで医師が 1 人、臨床心理士が 1 人の体制で診療を行っている。また事務員は開院当初は 2 人で、2019 年度から 3 人、2022 年度からは 4 人で、患者や家族への対応、医療事務、関係諸機関との連絡など、多岐にわたる業務を行ってきた。開院以来 5 年間は週 3 日の開院で、月曜日は開院当初は 14:00～17:00 の 3 時間、2018 年 9 月以降は 14:00～18:00 の 4 時間、火曜日は 9:00～13:00 の 4 時間、金曜日は 9:00～12:00 及び 14:00～17:00 の 6 時間の診察であった。こころのクリニックは、保健衛生学部医療福祉学科臨床心理学専攻生の学外心理実習の場として、大学教育における役割も担っており、2021 年度から臨床心理学専攻の 4 年生は、新型コロナウイルスの感染拡大に対する衛生上の対策も含めて、受診者やその家族に対する健康状態などに関する問診などを担当した。医療科学研究科臨床心理学分野の実習の場としては、あらかじめ同意をいただいた受診者に対してのみ、大学院生一人が初診の診察に陪席（同席）することがあり、その場合は大学院生に対して診察後の指導も行った。心理検査についても同様に、大学院生の陪席、臨床心理士による事後の指導が実施された。

2. 受診者数などの 5 年間の推移

開院後 5 年間の受診者数の推移を表 1-1～表 1-5 に記した。延べ受診者数は、2017 年度から 2021 年度にかけて、それぞれ 1,103 人、1,991 人、2,411 人、2,613 人、2,831 人と毎年増え続けている。また年間の初診者数は 5 年間で計 1,031 人であった。2017 年度から 2021 年度にかけて、236 人、248 人、231 人、171 人、145 人と 2018 年度をピークに減少している。これは、再診患者数が増え続けたため、一人当たり 1 回に 15 分としてきた再診の診察枠が常に一杯となってしまえばかりか、1 時間に 5～8 人診察せざるを得ないことも多く、再診患者の診察枠を確保するために、初診患者を減らさざるを得なくなったためである。また初診の受付について、依頼があった時点で順次受け付けるという形にしてきたが、初診までの待ち期間が半年を超えて、実情にそぐわない、あるいはキャンセルが多くなるなどの問題が表面化して、2020 年 12 月から、月の初めの診察日に 3 か月後の初診を電話で受け付けるという形に変更した。それでも受付開始後約 1 時間で初診枠がうまってしまい、翌月の受付日までに毎月 40～50 件の受診希望の問い合わせが入り、地域からの依頼に応えられなくなっている状況が続いている。

新型コロナウイルスの感染拡大のため、2020 年 2 月頃からは多くの医療機関でも診察状況に大きな影響が出ている。当院の場合も、2020 年 4～5 月（いわゆる第 1 波の時期）、2020 年 8～9 月（同様に第 2 波）、2021 年 1～2 月（第 3 波）、2021 年 5 月（第 4 波）、2021 年 7 月（第 5 波）、2022 年 2 月（第 6 波）にそれぞれ前後の月と比較して、20～30 人程度の受診者の減少がみられた。

本学の学生の受診も増えつつあるが、受診に至る経緯としては、本人や保護者の希望による受診、担当教員や学生相談室のカウンセラーのすすめによる受診など様々であった。

表 1-1 2017 年度の受診者数および初診患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
受診者数(延数)	-	38	83	66	82	99	123	105	127	115	120	145	1,103
内 初診患者数	-	24	24	21	21	24	25	19	22	18	18	20	236
家族相談件数	-	2	1	1	2	1	1	2	0	1	2	4	17

表 1-2 2018 年度の受診者数および初診患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
受診者数(延数)	139	142	173	179	170	147	181	168	162	158	162	210	1,991
内 初診患者数	24	20	25	22	20	18	22	16	15	24	19	23	248
家族相談件数	1	5	2	0	2	1	1	0	2	0	0	0	14

表 1-3 2019 年度の受診者数および初診患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
受診者数(延数)	188	203	191	221	204	198	213	210	216	182	186	199	2,411
内 初診患者数	18	20	21	21	18	21	23	16	22	21	14	16	231
家族相談件数	5	3	1	0	1	4	1	3	0	0	2	1	18

表 1-4 2020 年度の受診者数および初診患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
受診者数(延数)	188	183	220	220	226	218	239	224	250	208	205	232	2,613
内 初診患者数	14	14	15	18	17	11	20	10	20	11	12	9	171
家族相談件数	1	1	2	0	2	2	0	0	1	0	0	1	10

表 1-5 2021 年度の受診者数および初診患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
受診者数(延数)	235	205	244	226	246	207	258	264	245	246	197	258	2,831
内 初診患者数	14	9	10	15	11	7	15	12	13	12	10	17	145
家族相談件数	1	0	1	0	1	1	1	2	1	0	0	1	9

3. 年齢・性別および疾患名で分類した初診患者の推移

初診患者の年齢・性別による内訳を表 2-1～表 2-5 に記した。5年間で一貫した当院の特徴としては、幼児から高校生までの子どもの受診が毎年の初診患者の約 8 割を占めていることである。5年間の総計では、初診患者の総計 1,031 人中、幼児から高校生までの子どもは 843 人で、81.8%を占めている。児童、特に幼児に対する精神科診療に携わっているクリニックは三重県内では多くな

いと考えられるが、当院では幼児と小学生が 5年間で 521 人であり、中高生をあわせた思春期青年（5年間で 322 人）の約 1.6 倍になっていた。

男女比については、幼児、小学生では男子の受診者数（5年間で 366 人）が女子（5年間で 155 人）の約 2.4 倍多くなっている。これは後述するように、注意欠如多動症と自閉スペクトラム症の患者が初診患者の 53.2%を占めており、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症の DSM-V⁴⁾ による有病率の男女比が前者の場合 2:1、後者の場合 4:1 で男性に多いとされていることの影響が大

表 2-1 2017 年度の初診患者の年齢・性別による内訳

	2～6歳 (幼児)	6～12歳 (小学生)	12～15歳 (中学生)	15～18歳 (高校生)	18～29歳	30～39歳	40～50歳	51～60歳	61～70歳	全体
男	14	48	23	15	11	6	3	1	0	121
女	5	32	20	27	14	8	8	1	0	115
計	19	80	43	42	25	14	11	2	0	236

表 2-2 2018 年度の初診患者の年齢・性別による内訳

	2～6歳 (幼児)	6～12歳 (小学生)	12～15歳 (中学生)	15～18歳 (高校生)	18～29歳	30～39歳	40～50歳	51～60歳	61～70歳	全体
男	41	56	26	17	13	4	1	0	0	158
女	17	20	18	13	13	5	2	2	0	90
計	58	76	44	30	26	9	3	2	0	248

表 2-3 2019 年度の初診患者の年齢・性別による内訳

	2～6歳 (幼児)	6～12歳 (小学生)	12～15歳 (中学生)	15～18歳 (高校生)	18～29歳	30～39歳	40～50歳	51～60歳	61～70歳	全体
男	35	55	27	19	5	1	1	1	0	144
女	6	29	18	9	14	3	4	2	2	87
計	41	84	45	28	19	4	5	3	2	231

表 2-4 2020 年度の初診患者の年齢・性別による内訳

	2～6歳 (幼児)	6～12歳 (小学生)	12～15歳 (中学生)	15～18歳 (高校生)	18～29歳	30～39歳	40～50歳	51～60歳	61～70歳	全体
男	23	43	13	6	10	1	1	0	0	97
女	5	20	14	13	12	6	4	0	0	74
計	28	63	27	19	22	7	5	0	0	171

表 2-5 2021 年度の初診患者の年齢・性別による内訳

	2～6歳 (幼児)	6～12歳 (小学生)	12～15歳 (中学生)	15～18歳 (高校生)	18～29歳	30～39歳	40～50歳	51～60歳	61～70歳	全体
男	16	35	8	5	10	2	1	0	1	78
女	7	14	21	10	8	3	3	1	0	67
計	23	49	29	15	18	5	4	1	1	145

きい。中学生以降では、女性の方が年齢とともに、より多く受診するようになってくる。この一因としては、抑うつ障害群では青年期早期以降では女性が男性より1.5～3倍多い⁴⁾とされているが、当院では抑うつ障害群が5年間で112人と初診患者の10.9%を占めたこと(表3)、また女性に圧倒的に多い摂食障害群の患者も当院では少なくないことも影響しているだろう。なお高齢者の受診については、過去5年間はホームページなどで、受診者の年齢を60歳までに制限していたことなどもあり、極めて

少ない。

初診患者の疾患名による5年間の推移を表3にまとめた。初診時の病状としては、診断名は一つに限らないし疑いのレベルの場合もある。ただ統計的にまとめる必要がある関係で、受診者一人につき最も中心的な疾患一つに限って(疑いのレベルも含めて)まとめた。疾患の分類はDSM-V⁴⁾によっている。

神経発達障害群の患者が非常に多く、特に注意欠如多動症と自閉スペクトラム症の両者で、5年間で549人と

表 3 2017 年度から 2021 年度までの初診患者の疾患名とその人数

疾患名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
神経発達障害群	130	160	159	108	97
(知的能力障害群)	(9)	(20)	(18)	(10)	(9)
(コミュニケーション症群)	(2)	(7)	(6)	(3)	(2)
(自閉スペクトラム症)	(52)	(47)	(52)	(47)	(38)
(注意欠如・多動症)	(59)	(83)	(81)	(43)	(47)
(限局性学習症)	(4)	(3)	(1)	(3)	(1)
(運動症群)	(4)	(0)	(1)	(2)	(0)
統合失調症スペクトラム障害群	2	5	3	1	1
双極性障害群	8	4	4	1	0
抑うつ障害群	31	22	22	23	14
不安障害群	10	14	13	17	7
強迫性障害および関連障害群	5	3	2	7	3
心的外傷およびストレス因関連障害群	19	11	6	1	3
解離性障害群	3	0	0	0	1
身体症状症および関連症群	8	13	9	4	5
食行動障害および摂食障害群	14	6	7	4	11
排泄症群	3	2	0	0	0
睡眠-覚醒障害群	0	4	0	3	2
性別違和	0	2	0	0	0
秩序破壊的・衝動制御・素行症群	1	1	0	1	0
パーソナリティ障害群	0	0	0	0	1
パラフィリア障害群	0	0	1	0	0
インターネットゲーム障害	0	0	1	1	0
その他(内科疾患など)	2	1	4	0	0
全体	236	248	231	171	145

なり、初診患者の 53.2%を占めている。次に多いのが抑うつ障害群そして不安障害群であった。厚生労働省の患者報告⁵⁾で令和 2 年度において精神疾患患者の 14.3%を示すと報告されている統合失調症スペクトラム障害群は当院ではわずか 1.2%に過ぎないのも特徴的であった。

4. 心理検査について

当クリニックでは、2017 年度と 2018 年度は週 1 日臨床心理士が勤務したが転勤となり、2019 年度から担当者がかわり、新たな臨床心理士(公認心理師)が現在までは週 1 日半、勤務している。当院における臨床心理士の役割としては、心理検査とそのフィードバック、及び大学院生や学生に対する指導である。2017 年度と 2018 年度における、心理検査・フィードバックの件数は、それぞれ 102 件、215 件であった。2019 年度から 2021 年度にかけては、心理検査がそれぞれ 128 件、109 件、111 件、フィードバックが同じく 105 件、103 件、119 件であった。

心理検査としては、WISC-IV 検査が最も多く、次に新版 K 式発達検査で、他には年度による変化はあるが、WPPSI-III 検査、PARS-TR 検査、WAIS-IV 検査など、神経発達障害の診断や治療などで特に意味が大きい検査が多数を占めた。

5. 2022 年度からの動向と今後の課題について

2022 年度から診療を担当する医師が 2 人になって、診療時間がこれまでの週 14 時間から 20.5 時間(二人で同時に診療している時間もあるため 2 人で延べ 23.5 時間)となった。診察日は週 4 日となり、木曜日の 9:00~13:00 及び 14:00~17:00 も診療することとなった。2022 年 4 月の延べ受診者は 354 人、内初診患者は 87 人、同年 5 月の延べ受診者は 363 人、内初診患者は 60 人と大幅な増加となった。これは医師が一人増員になったことに加えて、筆者がこれまで長年非常勤で診療していた他市におけるクリニックの診療を 2022 年 3 月末で終了し、そのク

リニックに通院されていた患者の多くが当院に転院になったことの影響が大きい。クリニック事務員が4人体制となるのに備えて、2022年1～2月には事務室の拡張などクリニックの一部改修も実現し、大学附属クリニックとして望ましい形態になってきている。しかし、児童・思春期精神科領域の診療については、先述したように地域からのニーズが極めて大きく、それに応えられる体制にはなっていない。児童・思春期領域に専門性のある医師の増員などが望ましい。

謝 辞

鈴鹿医療科学大学附属こころのクリニックの運営などに関して、本学の高木純一理事長、豊田長康学長、矢田智樹人事・厚生課長、清水計雄前医療福祉事業担当課長、藤原芳朗医療福祉学科長、医療福祉学科臨床心理学専攻の渡部千世子教授、平谷智生助手をはじめ、多くの方々のご助力、ご協力をいただきました。こころより深く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 福島裕人, 大谷正人: こころの相談センター及びこころのクリニックの開設 現状と課題. 鈴鹿医療科学大学研究紀要. 2017; 24: 169-175.
- 2) 大谷正人: こころのクリニックとこころの相談センターの連携の現状 こころのクリニック開設1年間の現状もふまえて. 鈴鹿こころ臨床心理学研究. 2018; 1: 7-12.
- 3) 大谷正人: こころのクリニック開院後2年間の受診状況と今後の課題. 鈴鹿医療科学大学研究紀要. 2019; 26: 133-139.
- 4) American Psychiatric Association : Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Fifth Edition. DSM-5. American Psychiatric Publishing, Washington D.C., 2013 (日本精神神経学会日本語版用語監修, 高

橋三郎・大野裕監訳, 染谷俊幸・神庭重信・尾崎紀夫・三村将・村井俊哉訳: DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル. 医学書院, 東京, 2014)

- 5) 厚生労働統計協会: 国民衛生の動向・厚生 の指標 増刊・第69巻第9号. 一般財団法人 厚生労働統計協会, 東京, 2022.

— プロフィール —

大谷 正人 鈴鹿医療科学大学保健衛生学部医療福祉学科・教授 (博士 [医学])

[経歴] 1981年三重大学医学部卒業, 1986年三重大学医学部附属病院助手, 1999年三重大学教育学部教授, 2016年鈴鹿医療科学大学保健衛生学部特任教授, 2017年鈴鹿医療科学大学附属こころのクリニック院長。[専門] 摂食障害や発達障害などの児童青年精神医学, 音楽家の病跡学。

平山 木綿子 鈴鹿医療科学大学附属こころのクリニック学生相談室カウンセラー (臨床心理士, 公認心理師)

[経歴] 1994年高知大学人文学部文学科心理学専修卒業, 2013年京都光華女子大学大学院人間関係学研究所心理学専攻臨床心理学コース修士課程修了, 2018年鈴鹿医療科学大学学生相談室カウンセラー, 2019年鈴鹿医療科学大学附属こころのクリニックカウンセラー。[専門] 臨床心理学。

吉井 恭子 鈴鹿医療科学大学附属こころのクリニック

[経歴] 1974年鈴鹿短期大学家政学科養護コース卒業, 1998年三重県教育委員会体育保健課指導主事, 2014年三重県立松阪高等学校養護教諭退職, 2015年鈴鹿医療科学大学白子キャンパス保健室勤務, 2017年鈴鹿医療科学大学附属こころのクリニック勤務。[専門] 学校保健, 健康相談。

Medical situations in the Center for Psychiatry and problems with the Center during five years after the establishment

Masato OTANI, Yuko HIRAYAMA, Kyoko YOSHII

Faculty of Health Science,
Suzuka University of Medical Science

Key words: university-attached clinic, child and adolescent psychiatry, DSM-5, neurodevelopmental disorders

Abstract

The medical situations in the Center for Psychiatry and the problems with the Center during 5 years after the establishment were reported. Children and adolescents from 18 years old and under accounted for 81.8 percent among 1,031 patients who had medical examinations in this center. In relation to their diagnoses, both of attention-deficit/hyperactivity disorder and autism spectrum disorder amounted to more than half (53.2 percent of 1,031 patients). Hence more doctors who examine children and adolescents will be needed in this Center.